

第4章 リーディングプロジェクト

山と人をつなぐプロジェクト

プロジェクトの概要

- ・ 民有林の管理（施業）を確実に行います。また、そのために必要な施設を整備します
- ・ 森林施業で出る間伐材・低質材等の、バイオマスエネルギーとしての利用を検討します
- ・ 山と森林の価値を広める活動を推進します

プロジェクトで進める施策

施策の方針	実施する施策
効率的な森林経営の推進	森林施業の計画実施
	新たな貯木所（中間土場）の設置
昭和の森天城ビジターセンターを拠点とした保全啓発活動	天城ビジターセンター、森林博物館を拠点とした天城山保全普及活動
	「天城グリーンガーデン」の整備
温室効果ガス排出量の削減	木質（チップ）ボイラー導入検討

プロジェクトのスケジュール

実施する施策	スケジュール									
	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
森林施業の計画実施	→									
新たな貯木所（中間土場）の設置	-	-	-	-	-	→●				
天城ビジターセンター、森林博物館を拠点とした天城山保全普及活動	→									
「天城グリーンガーデン」の整備	-	-	-	→●						
木質（チップ）ボイラー導入検討	-	-	→	-	-	→	→			

指標及び目標等

指標名	現況	目標等
市有林森林施業面積（延べ）	200 h a	1, 200 h a
貯木所の設置箇所数（延べ）	1 箇所	2 箇所
天城グリーンガーデン整備	未実施	完成
木質ボイラー導入数（延べ）	0 基	1 基

凡 例			
検討期間	準備期間	実施期間	完成
- - - - ->	- - - - ->	→	●

主な用語の解説等

森林施業とは

施業とは、人が森林に対して行う手入れの総称です。

植栽（植林）、下刈り、除伐、間伐、伐採などを含みます。

スギ・ヒノキなどの人工林や、いわゆる里山林などは、人の手が入ってはじめて健全な状態が保たれるものであり、放置された森林は荒廃が進み、大雨による土砂災害等がおこりやすくなります。

森林施業は、市内の民有林について定める長期的なマスタープランであり、伊豆市森林整備計画に沿って実施するものです。



天城ビジターセンター・森林博物館

伊豆半島は、地球が生み出した自然遺産の宝庫です。そして、その遺産を保全し、活用し、経済・文化活動につなげていくための仕組みが「伊豆半島ジオパーク」です。

天城ビジターセンターは、伊豆半島ジオパークの情報発信を行う拠点として、天城の自然や生態系を解説する「森林博物館」とともに、道の駅「天城越え」内に設置されています。



木質（チップ）ボイラー

森林の施業で出た小枝や間伐材は、戦後まもなくまでは燃料などで利用されていましたが、その後石油などの化石燃料に替わっていきました。

現在は、これらの枝などは、木質バイオマスという資源として改めて価値が認められています。

木質バイオマスは、化石燃料と違って比較的短い時間で生産することが可能であり、地球温暖化に悪影響を及ぼさない（カーボンニュートラル）という特長があります。

枝や低質な材を細かくチップ化し、暖房や給湯に用いる「木質（チップ）ボイラー」は、枝等が有価物として活用できるだけでなく、環境にもやさしい技術として注目を集めています。

川と人をつなぐプロジェクト

プロジェクトの概要

- ・市民との協働により、清らかで豊かな川を保全します
- ・市の川の価値を発信します

プロジェクトで進める施策

施策の方針	実施する施策
水質の把握	市民参加による河川水質調査の実施、観察会の開催
生態系に配慮した親水空間の形成	市民参加による河川美化の実施

プロジェクトのスケジュール

実施する施策	スケジュール										
	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	
市民参加による河川水質調査の実施、観察会の開催											→
市民参加による河川美化の実施											→

指標及び目標等

指標名	現況	目標等
観察会等開催回数	1回/年	2回/年
河川美化参加団体数又は実施回数	1回/年	2回/年

凡 例			
検討期間	準備期間	実施期間	完成
--->	----->	————>	●

主な用語の解説等

生き物でわかる川の環境

川には、魚だけでなく、エビ・カニ、貝、昆虫といった様々な生き物がいます。

これらの生き物が好む環境は、「きれいな水（きたない水）で生息する種類」、「流れる水（流れがゆるい水）で生息する種類」、「石（土）の川底で生息する種類」など種類によって異なり、逆に、生物を調べることで、その川の環境を調べることができます。

市では、市の河川に実際に生息している生き物を調べることで、その川の環境を把握する調査について、実施を検討します。

●きれいな水の生物

カワゲラ類 ヒラタカゲロウ類 ナガレトビケラ類 ヤマトビケラ類
アミカ類 ヨコエビ類 ヘビトンボ ブユ類 サワガニ ナミウズムシ

●少しきたない水の生物

コガタシマトビケラ類 オオシマトビケラ ヒラタドロムシ類
ゲンジボタル コオニヤンマ カワナナ類 ヤマトシジミ イシマキガイ

●きたない水の生物

ミズムシ シマイシビル タニシ類
ミズカ マキリ

●大変きたない水の生物

エラミミズ サカマキガイ
ユスリカ類 チョウバエ類
アメリカザリガニ



河川美化活動

河川美化活動には、川の美しさを保ち、景観に寄与するだけではなく、洪水等の災害の防止、不審火やごみの不法投棄対策といった効果があります。

伊豆市では、市の管理河川において、清掃・草刈・花壇の手入れなどの美化活動を行う、町内会・河川愛護団体・企業・NPO等の団体に、ゴミ袋を配布し、ゴミの回収などの活動支援を行っております



海と人をつなぐプロジェクト

プロジェクトの概要

- ・津波対策を実施し、海との共生を進めます
- ・きれいな海を後世に伝えます。

プロジェクトで進める施策

施策の方針	実施する施策
津波対策	堤防・護岸・消波ブロック等防災対策推進
美しい海岸づくり	海岸美化の推進
水質の把握	市民による水質調査・生き物調査の実施

プロジェクトのスケジュール

実施する施策	スケジュール										
	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	
堤防・護岸・消波ブロック等防災対策推進							●				
海岸美化の推進											
市民による水質調査・生き物調査の実施											

指標及び目標等

指標名	現況	目標等
防潮堤等の整備率 (%)	0%	60%
観察会等開催回数 (年間)	5回/年	10回/年

凡 例			
検討期間	準備期間	実施期間	完成
--->	----->	————>	●

主な用語の解説等

津波対策

伊豆市においては津波対策として、伊豆市地域防災計画（津波対策編）を平成24年度に策定し、それに基づく対策・準備を進めております。

その対策の一つとして、漁港海岸施設等（堤防、護岸、胸壁等）の整備があり、順次進めているところです。

津波対策は、市民の生命財産を守るばかりではなく、海の環境保全にも繋がります。整備にあたっては、可能な限り環境へ配慮し、自然との共生をはかっていきます。



海岸美化

海岸美化には、土肥高校・旅館組合・商工会による海岸清掃やボランティア・ダイバーによる海底清掃など年に数回実施しており、市においてもゴミ袋の提供、ゴミの回収をして、美しい駿河湾の環境を協働により保全しております。



生き物調査

駿河湾には、多数の生物が生存しておりますが、磯にすむ生物は意外と名前が知られておりません。観察会では生物の意外な生態系や海での楽しみ方、環境を知ることができます。

○土肥の海岸で観察できる主な生物

アラレタマキビガイ イボタマキビガイ
タマキビガイ イボニシ イワガニ
クロツケガイなど



人と人をつなぐプロジェクト

プロジェクトの概要

- ・人の活動が及ぼす環境への負荷を減らします
- ・市民等の参加による活気があり暮らしやすい環境づくりを進めます

プロジェクトで進める施策

施策の方針	実施する施策
街並み景観の保全と創造	景観計画の推進、条例の制定
コンパクトタウン&ネットワーク構想に基づく事業展開	中心市街地の整備（文教ガーデンシティ）
温室効果ガス排出量の削減	エコ家計簿の推進
優れた環境のブランド化の推進	東京五輪自転車競技開催地というブランド力を活かしたサイクルメッカ伊豆の推進
森林や清流を活かした産業の振興	飲食店・宿泊施設等での地産地消の推進
環境情報の充実、環境学習の充実	伊豆半島ジオパーク事業による環境情報の発信

プロジェクトのスケジュール

実施する施策	スケジュール										
	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	
景観形成、条例の推進	→●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
中心市街地の整備（文教ガーデンシティ）	→	→	→	→	→●	→	→	→	→	→	→
東京五輪自転車競技開催地というブランド力を活かしたサイクルメッカ伊豆の推進	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
エコ家計簿の推進	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
飲食店・宿泊施設等での地産地消の推進	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
伊豆半島ジオパーク事業による環境情報の発信	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

指標及び目標等

指標名	現況	目標等
中心市街地の整備	未実施	完成
エコ家計簿の推進（人）	0人	100人
地産地消の推進（食育プロジェクトの開催（回／年））	6回／年	8回／年
ジオガイドの育成（人）	14人（市内）	2人／年

凡 例			
検討期間	準備期間	実施期間	完成
→	→	→	●

主な用語の解説等

景観条例・景観計画

現在、市は景観法に基づく「景観計画」及び「景観条例」の検討を行っています。

景観計画を策定すると、景観計画区域内における建築物に対する勧告や、景観上重要な建造物等の指定、景観協定の締結など、景観形成にむけた制度が活用できるようになります。

文教ガーデンシティ

文教ガーデンシティ整備は、コンパクトタウン&ネットワーク構想の基軸となる計画で、新中学校の建設に合わせ、こども園、公園のほか、自然と調和するゆとりある住宅地を整備するものです。

3つの中学校の再編というインパクトを伊豆市の活力に変えるため、教育環境の整った魅力ある中学校を整備するとともに、自然に配慮した緑豊かな住宅地やこども園、公園を一体的に整備することで、教育・文化の香りが漂うまちづくりを目指します。また、こども園を中心とした保育サービスの充実や子供たちが安心して遊べる公園を整備し、笑顔あふれる子育てタウンの創生を目指します。そのほか、有事の際の防災拠点として位置付け、自然と調和した潤いある空間と両面の機能を有するエリアとしていきます。

●自然環境と共生できるまち

- ・狩野川の恵まれた自然環境を活かす風景づくり
- ・天城山の眺望を生かした整備計画
- ・中学校やこども園の敷地と公園等の豊かな植栽
- ・歩行者が最優先となる市街地の整備

●環境に配慮した学校づくり

- ・地球環境共生を目指すサステナブル建築（持続可能な建築物）の導入
- ・断熱性能の確保とライトシェルフ（中庇）の導入
- ・地元産の木材を多用した校舎

サイクルメッカ伊豆

伊豆市には、自転車競技の世界標準仕様を満たした競技施設「伊豆ベロドーム」（東京五輪開催会場）を持つサイクルスポーツセンターがあります。

また、国内最大級の自転車レース「ツアー・オブ・ジャパン」の「伊豆ステージ」が、サイクルスポーツセンターを中心としたコースで平成18年から開催されています。

このツアー・オブ・ジャパンの大会に合わせた伊豆サイクルフェスティバルの開催等、自転車からみた伊豆市の魅力を発信していきます。



